

完工図作成要領

令和5年 1月

福岡市水道局

完工図作成要領

1. 目的

この要領は、水道施設の維持管理・管整備等の計画、設計、埋設位置確認などに必要な、完工図の作成について定めるものであり、工事完成後における維持管理の適正を図ることを目的とする。

2. 適用

この要領は、福岡市水道局が発注する水道施設の新設、改良または撤去する工事の完工図の作成に適用する。

この要領に定めのない事項またはこれにより難しい場合は、JIS Z 8310～18「製図」、土木学会制定「土木製図規準」に準拠する。ただし、CADによる製図方法は、国土交通省「CAD製図規準（案）」を準拠すること。

3. 図面の規格及び品質

- (1) 図面の規格は、すべてA版規格とし、仕上げ寸法はA1（寸法594×841mm）版を原則とする。これにより難しい場合はA版規格サイズから選択し、工事ごとになるべく統一する。
- (2) 図面の提出については、下記のいずれかの方法にて行うこと。

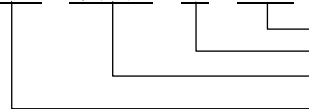
ア トレーシングペーパー

原図の紙質は、良質つや消しトレーシングペーパー（50g/m²）もしくは、それと同等品以上とする。

イ 電子データ

電子データで提出する場合、原図の提出は不要とするが、図面ファイルはSFC形式とする。また、図面ファイルの名称は、「完工図番号+日本語ファイル名+図面番号+.SFC」とし、日本語ファイル名は、内容が判る名称とする。

(例) 9999 平面図 01 .SFC



拡張子(SFC)
格納順に、01～NNと連番で整理するとよい
後に分かるような名称をつける
完工図番号

電子媒体へ格納する前に、作成した電子成果品に対してウイルスチェックを行い、成果品が正しく格納されているか、目視によるチェックによって不備がないことを確認した後、提出すること。なお、ウイルスチェックソフトは最新定義に更新（アップデート）したものを利用すること。

4. 文字及び線

- (1) 文字（数字を含む）、線及び記号等は、かすれ、太さの不整等が無いように一定の濃度で書くこと。
- (2) 文字は楷書、数字はアラビア数字で明確に書き、横書きを原則とする。
- (3) 文字の大きさは、寸法数字 2.5mm、旗揚げタイトル文字 5.0mm、その他 3.0mm、水栓番号 2.0mm を標準とし、線と文字が重複しないように書くこと。
- (4) 新設管の線の太さは、配水管 0.9mm、給水管 0.5mm、その他既設管、地形、寸法線等の太さは、細線 0.2mm を標準とする。

5. 表示記号

- (1) 管路図表示記号は、別紙 1「管種表示記号」、別紙 2「管口径及び弁栓類等表示記号」を使用すること。
- (2) 配管管割図に略図を用いる場合は、JWWA G 113・114 に記載されている記号を使用すること。別紙 3「管符号」参照。

6. 図面の構成

(1) 位置図

- ア 位置図は、平面図の右端上方に配置し、方位、配管図の小メッシュ番号（戸番号）を記入すること。
- イ 縮尺は、原則として 1/5000 の地形図を使用すること。
- ウ 工事場所が容易に理解できるように、工事路線を図示し、北を上とし、町名及び目標となる建物等の名称を記入すること。
- エ 施工箇所的位置を太い実線で記入し、該当箇所を円で囲んだり、「工事箇所」と記入するなど施工箇所を明確にすること。

(2) 平面図（別紙 4_記入例参照）

平面図は、設計平面図を基図に使用し、原則として図面の上が北となるように配置すること。また、縮尺は 1/300 を標準とし、縮尺と方位を記入すること。

図面が 2 枚以上にわたる場合、または図面が 1 枚であっても路線の方向が変わり路線を分割する場合は、アルファベットによる符号をつけた分割線を記入すること。

ア 地形

- (ア) 道路には、国、県、市道の通称名、路線内の埋設物等を記入すること。
- (イ) 河川には、名称、流水方向、その他必要な事項を記入すること。
- (ウ) ビル等については、建物名称を記入すること。
- (エ) マッピングシステムによる切り出し図面を使用した設計平面図の場合は、民

地内の家形・ブロック塀・門柱などが現地と相違があっても修正の必要はない。ただし、オフセット値をブロック塀などの民地内の構造物より測定したもので相違があるものについては、修正し書き加えること。

イ 水道施設

- (ア) 口径、弁栓類、片落ち部等は、すべて記号で記入すること。
- (イ) 接続する既設管の口径、管種についても記入すること。
- (ウ) 工事範囲前後において口径、管種が異なる場合、接続管の口径、管種、延長も必ず旗揚げすること。
- (エ) 管路及び付属施設はスケールアップできるように正確に記入すること。また、垂直の振りは平面図上には記入しないこと。
- (オ) 既設管及び使用廃止管を記入すること。また、使用廃止管は残置する範囲が明確になるように旗揚げすること。

ウ オフセット

- (ア) オフセットは、弁栓類、工事始点・終点、T字管、伸縮可とう管、不断水穿孔、残置するサドル付分水栓、本管連絡部等を道路境界の角端部等の基点からの水平距離を2箇所以上測定し記入すること。不確定な基点（官民・民境界のブロック塀、門柱等）の場合は、3箇所以上から測定し記入すること。なお、測定は10cm単位とすること。
- (イ) 管路が大きく変化した変化点（曲管部）については、付近の弁栓からの水平距離を測定する。なお、弁栓が付近にない場合は、上記（ア）のオフセット測定に準じること。
- (ウ) 上記（ア）・（イ）の測定箇所のうち1箇所については、原則として管路に対して直角に測定すること。
- (エ) 給水管の分水栓の位置が、止水栓の垂直位置から1m以上ずれるときは、ずれた距離を記入すること。
- (オ) 道路の行き止まり部分にある敷地に対して、配水管の末端から給水管を分岐する場合は、折れ点箇所と構造物（配水支管、特殊排気弁等）の距離を測定し記入すること（給水装置工事施行基準 6.6_2)_(5)参照）。
- (カ) 別紙 5_オフセット記入例参照

エ 旗揚げ

- (ア) 管種、口径、延長、土被り、工事種別等を記入すること。
- (イ) 延長は設計延長ではなく、実際に施工した延長を記入すること。
- (ウ) 使用廃止管（撤去、残存）の管種、延長を記入すること。

- (エ) 仕切弁の撤去、特殊排気弁の新設・撤去を記入すること。
 - (オ) 消火栓、特殊排気弁、消火栓（うず巻き式FT）、特殊排気弁（うず巻き式FT）、ストレーナーの記号を明確に記入すること。また、片方向ストレーナーには必ず流れの方向を示す矢印（→）を付けること。
 - (カ) 給水管の口径、水栓番号を記入すること。また、接続部の既存給水管の口径、管種も記入すること
 - (キ) 伸縮可とう管については、製造会社名、型式、名称、材質、管長を記入すること。
 - (ク) 管頂までの土被りが浅いなどの理由で防護コンクリート及び敷鉄板を使用する場合には、その範囲及び厚さ、長さ等の情報を記載すること。（別紙 6_記入例参照）
 - (ケ) ガス管と適切な離隔が確保出来ない場合には、その範囲及び防護対策等の情報を記載すること。（別紙 7_記入例参照）
 - (コ) 配水管・給水管の掘削構内にガス管が確認された場合は離隔を記入すること。
 - (サ) 既設管路更生工事については、既設管の布設年度・管種・口径、更生工法等を記載すること。（別紙 8_記入例参照）
 - (シ) 既設管内布設工事については、既設管の布設年度・管種・口径、新設管の管種・口径、管内布設工法等を記載すること。（別紙 8_記入例参照）
 - (ス) 露出管については「露出管」と記入し、埋設部分と露出部分の区分を明確にするとともに延長を記載すること。（別紙 8_記入例参照）
- (3) 配管管割図（別紙 9_記入例参照）
- ア 工区ごとに配管状況がわかるような管割図を作成すること。切管及び一体化に必要な管類等は全て図中に記入する。なお、一般的な直管は図への表記を一本のみとし、N=○のように本数表示することができる。
 - イ 直管、異形管等の接合位置及び、材料名称、寸法、土被りを明確に記入すること。なお、図中の異形管等で表記上見えなくなるものについては目印をつけること。
 - ウ 異形管を使用し、上越し、下越し、迂回等をする場合は、その障害物の寸法及びその外壁等からの寸法を明確に記入すること。
 - エ 曲管はHB、VB、CBを記入すること。なお、工事始点から見た上下左右を記入すること。
 - HB: Horizontal Bend 管路の屈曲点で曲管を水平に設置する場合。
 - VB: Vertical Bend 縦断勾配の変化点で曲管を垂直に設置する場合。
 - CB: Combination Bend 水平及び垂直にも変化している屈曲点に曲管を設置する場合。
 - オ 管頂までの土被りが浅いなどの理由で防護コンクリート及び敷鉄板を使用する

場合には、その範囲及び厚さ、長さ等の情報を記載すること。(別紙 6_記入例参照)
カ ガス管と適切な離隔が確保出来ない場合には、その範囲及び防護対策等の情報を記載すること。(別紙 7_記入例参照)

キ 埋設物が輻輳するなど図面が分かりにくくなる場合は、部分的に詳細を示した管割図をつけるなど、わかりやすい図面の作成につとめること。

また、埋設物の深度は現況地盤から管頂までの土被りで表示すること。ただし、現況地盤と計画地盤高が存在する場合は、それぞれの被りを併記すること。

(4) 横断面図

ア 道路、河川、橋梁の横断面図に新設管の管種、口径、位置等を記入すること。

イ 新設管の掘削線及び寸法等を記入すること。

ウ 当該工事で調査した埋設物を記入すること。

エ ガス管との離れを記入すること。

(5) 側面図

伏せ越し、添架、鞘管推進、軌道下横断、水管橋、共同溝等における管及び構造物の位置・形状寸法を記入すること。

(6) 縦断面図

ア 縦断面図を必要とする工事の場合、縮尺は、縦 1/100、横 1/500 を標準とし、工事起点を図面左とする。

イ BM (KBM) の位置及び基準高を平面図にも記入すること。

(7) 標題欄

標題欄は、図面の右下隅に設けること。また、標題欄の上部又は側部に受注者欄及び占用許可番号欄を設け、記入すること。

(8) 管断面図 (別紙 10_記入例参照)

ア 既設管路更生工事の場合、既設管・被覆材料・被覆厚・更生管厚等がわかるよう、寸法等を記入した管断面図を記入すること。

イ 既設管内布設工事の場合、既設管・新設管 (既設管内布設管)・中込材等がわかるよう、寸法等を記入した管断面図を記入すること。

(9) 既設管路更生工法の仕様書

更生工法の強度計算結果 (抜粋)、主要資材等の仕様を記入すること。(別紙 11_記入例参照)

7. その他提出資料

(1) 配水本管仕切弁等及び弁室台帳

500mm 以上の全ての仕切弁、500mm 未満においては弁室を有する全ての仕切弁、

全ての減圧弁、全ての緊急遮断弁を新設、更新する場合は、「配水本管仕切弁等及び弁室台帳」に弁の仕様、弁室の寸法、オフセット等を記入し提出すること（別紙 12_台帳様式・記入例参照）。

(2) 水管橋台帳

水管橋（開水路の横断管など小規模なものを含む）及び橋梁に添架された管を新設、更新する場合は、「水管橋台帳」に管種、弁栓類等の有無などを記入し提出すること（別紙 13_台帳様式・記入例参照）。

(3) 占用許可書

書面による占用許可を受けた場合には、占用許可書の原本を提出すること（電子申請分を除く）。

8. その他

- (1) 受注者は、必要と思われるもの、及び不明点がある場合は監督職員と協議すること。
- (2) 受注者は、提出した完工図等に不備な点がある場合は、ただちに修正し再提出すること。

記号	名称
DIP・A	A形ダクタイル鋳鉄管
DIP・AE	A形ダクタイル鋳鉄内面粉体塗装管
DIP・T	T形ダクタイル鋳鉄管
DIP・TE	T形ダクタイル鋳鉄内面粉体塗装管
DIP・T-D	推進工法用T形ダクタイル鋳鉄管
DIP・K	K形ダクタイル鋳鉄管
DIP・KE	K形ダクタイル鋳鉄内面粉体塗装管
DIP・K-S	K形ダクタイル鋳鉄管（高性能押輪使用）
DIP・KE-S	K形ダクタイル鋳鉄内面粉体塗装管（高性能押輪使用）
DIP・KF	KF形ダクタイル鋳鉄管
DIP・U	U形ダクタイル鋳鉄管
DIP・U-D	推進工法用U形ダクタイル鋳鉄管
DIP・UF	UF形ダクタイル鋳鉄管
DIP・S	S形ダクタイル鋳鉄管
DIP・SⅡ	SⅡ形ダクタイル鋳鉄管
DIP・SⅡE	SⅡ形ダクタイル鋳鉄内面粉体塗装管
DIP・PⅡ	PⅡ形ダクタイル鋳鉄管
DIP・PN	PN形ダクタイル鋳鉄管
DIP・NS	NS形ダクタイル鋳鉄管
DIP・NSE	NS形ダクタイル鋳鉄管内面粉体塗装管
DIP・GXE	GX形ダクタイル鋳鉄管内面粉体塗装管
MLD	メカニカル形モルタルライニングダクタイル鋳鉄管
MLC	メカニカル形モルタルライニング鋳鉄管
MC	メカニカル形鋳鉄管
CIP	鋳鉄管（旧管・インロー形）
ACP	石綿セメント管
C・ACP	石綿セメント管（コールタール焼付け塗装）
SP	鋼管
PEP	水道配水用ポリエチレン管
SUS	ステンレス鋼管
SGP・VB	硬質塩化ビニールライニング鋼管
SCG	合成樹脂焼付け塗装鋼管
SGP	配管用炭素鋼管
GP	水道用亜鉛メッキ鋼管
PP	ポリエチレン管
VP	硬質塩化ビニール管
(更生管)	既設管路更生
(PIP)	既設管内布設

管口径及び弁栓類等表示記号

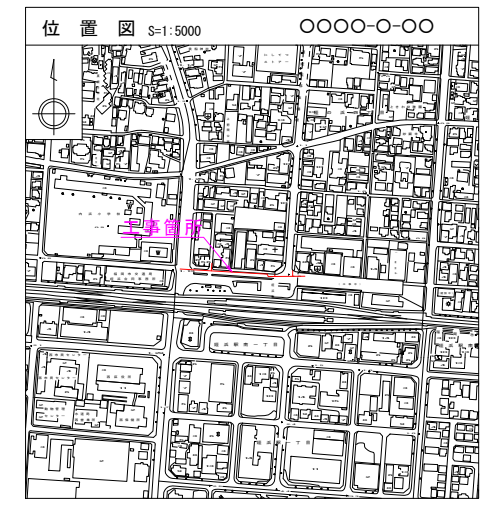
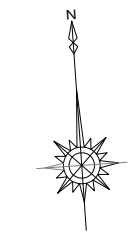
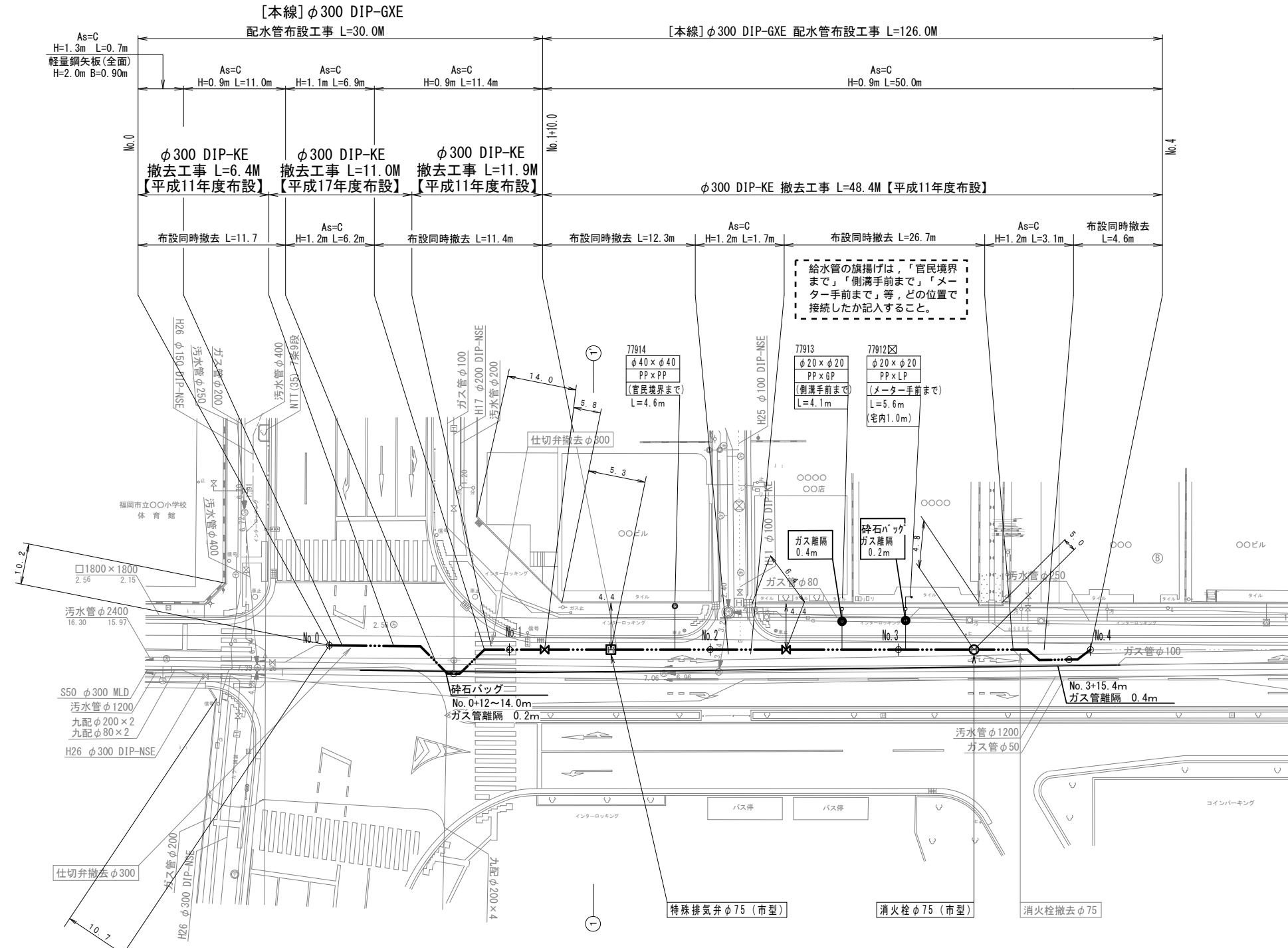
呼び名	記号	口径・名称	呼び名	記号	口径・名称
配水管		13	弁栓類等		消火栓
		20			特殊排気弁
		25			消火栓（うず巻式FT）
		40			特殊排気弁（うず巻式FT）
		50			空気弁
		75			仕切弁
		100			ソフトシール仕切弁
		150			電動弁
		200			充水型バタフライ弁
	配水本管			250	
		300			排水弁
		350			減圧弁
		400			流量計
		450			青銅仕切弁（Ⅰ）
		500			青銅仕切弁（Ⅱ）
		600			止水栓
		700			ポンプ
		750			電食防止
		800			片落管
		900			水圧仕切弁（水圧計）
		1,000			テレメータ
		1,100			下水マンホール
		1,200			九電マンホール
		1,350			N T Tマンホール
		1,500			ガス仕切弁
		1,650			伸縮可とう管
		1,800			片方向ストレーナー
				両方向ストレーナー	
				特殊排気弁付空気弁	
				特殊排気弁（バルブ付T字管）	
			消火栓（バルブ付T字管）		
			調整弁		

名 称	K 形	N S 形	G X 形
直管			
三受十字管			—
二受T字管			
受挿し片落管			
挿し受片落管			
曲管			
両受曲管	—	—	
乙字管	—	—	
仕切弁副管 A 1 号		—	—
仕切弁副管 A 2 号		—	—
フランジ付き T字管			
渦巻式フランジ 付きT字管			
排水T字管			—
継ぎ輪			
短管 1 号			—
短管 2 号			—
両受短管	—	—	
P-Link	—	—	
G-Link	—	—	

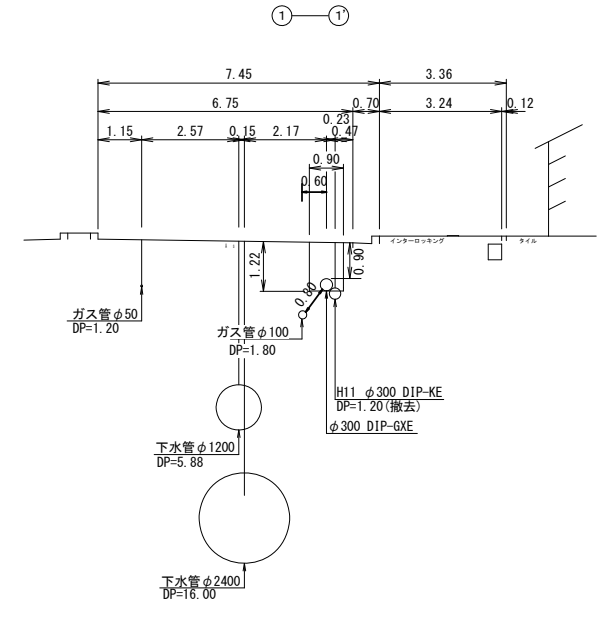
名 称	U 形	U F 形
直管		
三受十字管		
二受 T 字管		
受挿し片落管		
挿し受片落管		
曲管		
仕切弁副管 A 1 号		
仕切弁副管 A 2 号		
フランジ付き T 字管		
排水 T 字管		
継ぎ輪		
短管 1 号		
短管 2 号		

名 称	フランジ形	名 称	その他
三フランジT字管		T形	
二フランジT字管		A形	
フランジ片落管		S形	
曲管 (90°)		S II形	
曲管 (45°)		US形	
仕切弁副管 B 1号		PI形	
フランジ短管		PII形	
フランジふた		PN形	
人坑ふた		KF形	
らっぱ口		特殊押輪	
		ライナ	
		帽	
		栓	
絶縁フランジ		水道配水用 ポリエチレン管継ぎ手	

平面図 (1) S=1:300



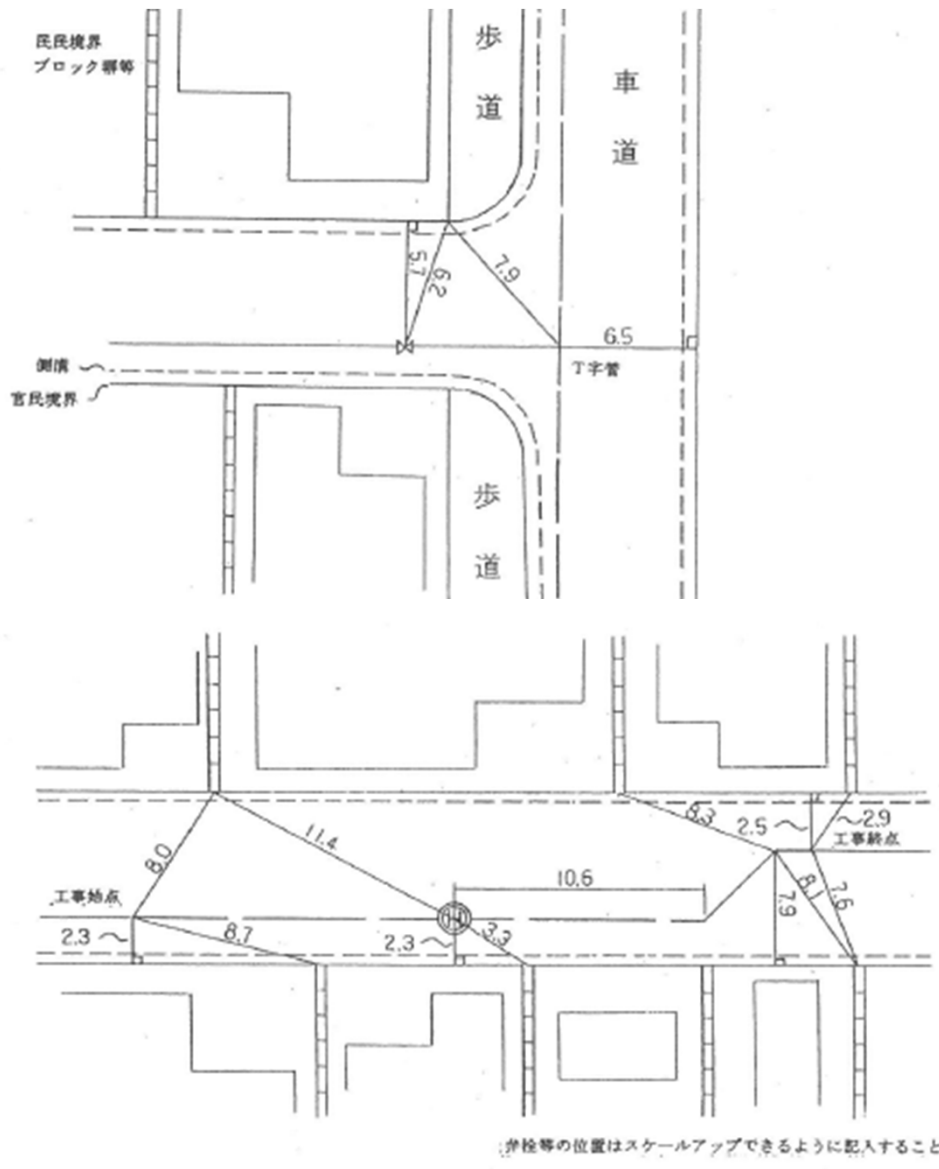
横断図 S=1:100



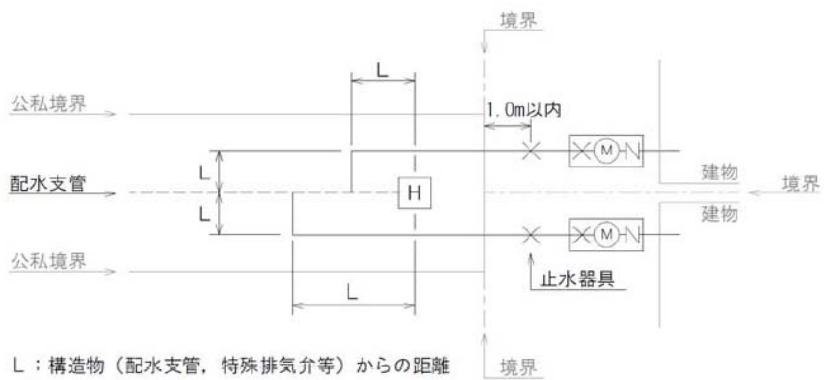
許可番号 ○区維第○○○○○号

完工図				
監督員	○	設計者	×	主管課
	○		×	
係長	△	課長	◆	
	△		◆	
施工業者社名	福岡市○区○○○丁目○番○号 株式会社○○○ 代表取締役○○○ TEL○○○-○○○-○○○○			
工期	自 令和○年 ○月 ○日 至 令和○年 ○月 ○日			

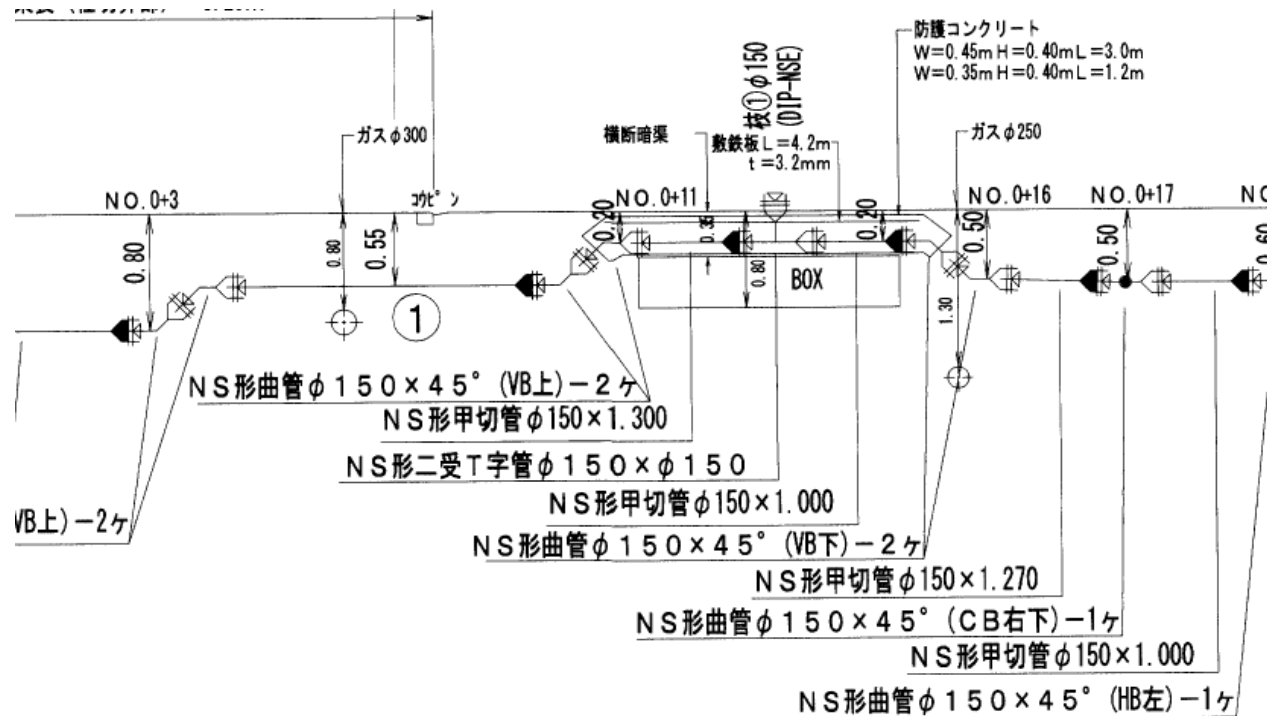
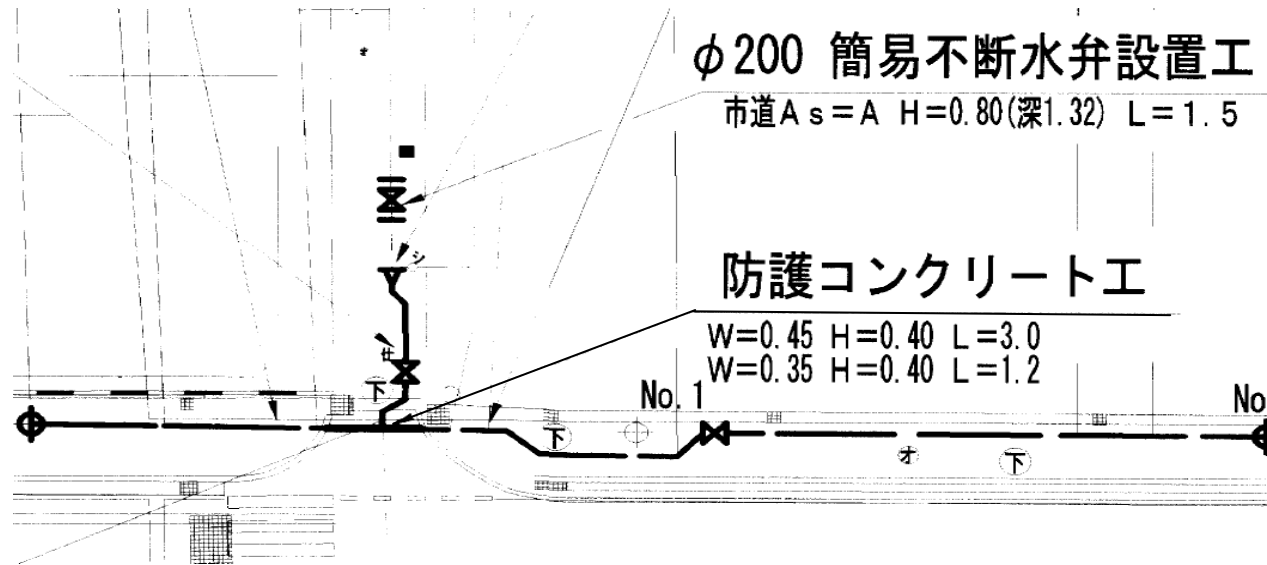
工事名称	○区○○○丁目地内 配水管布設工事		
図面番号	6-1	縮尺	内記
管径管種	φ300 DIP-GXE	φ200 DIP-GXE	φ150 DIP-GXE
布設延長	156.0M	8.5M	11.5M
製図	令和○年○月○日		
福岡市水道局配水部○○管整備課			



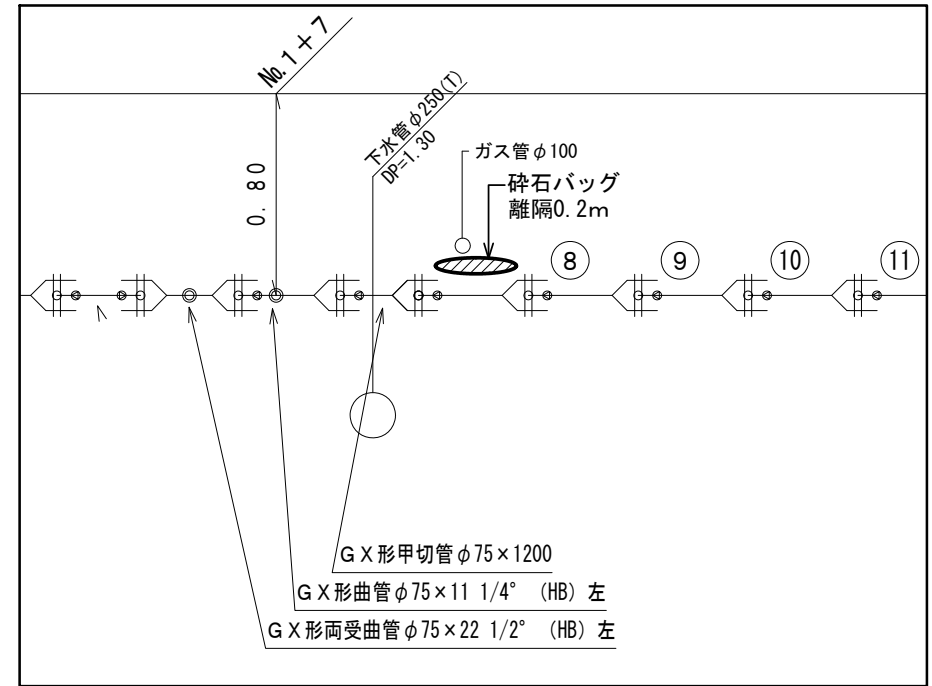
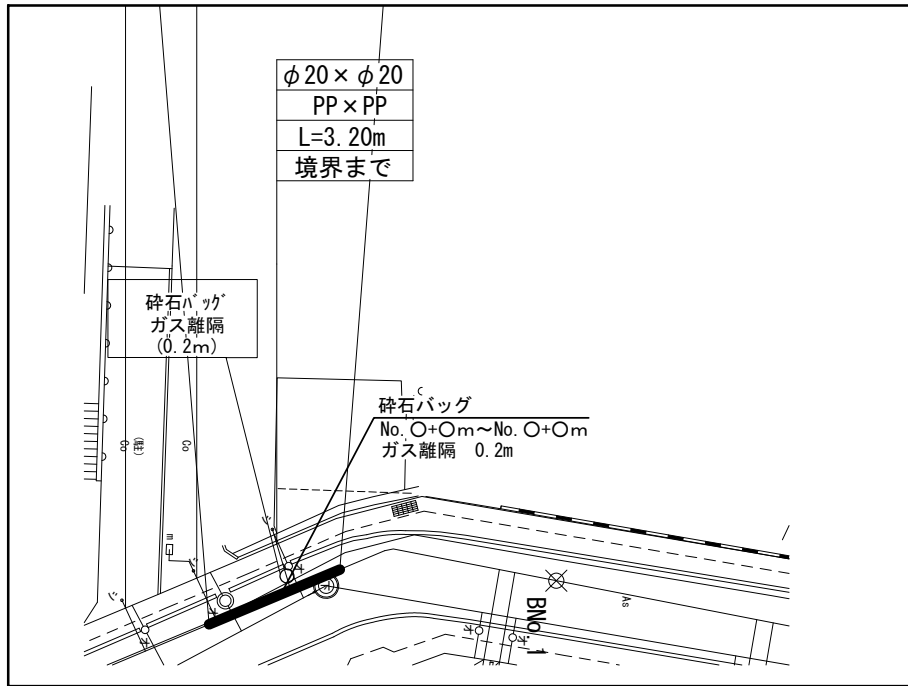
道路の行き止まり部分にある敷地に対して給水管を分岐する場合



給水装置工事施行基準6.6_2_(5)より



別紙7_碎石バッグ記入例



【既設管路更生工事の旗揚げ記入例】

ϕ 800 既設管路更生工事（反転工法 ホースライニング工法） L=100.0m （既設管：S47 ϕ 800 SP）
--

- ※ 既設管路更生工事の工法については「【参考】更生工法例」を参照
- ※ マッピングシステム上の表記：S47 SP（H31 更生管） ϕ 800

【既設管内布設工事の旗揚げ記入例】

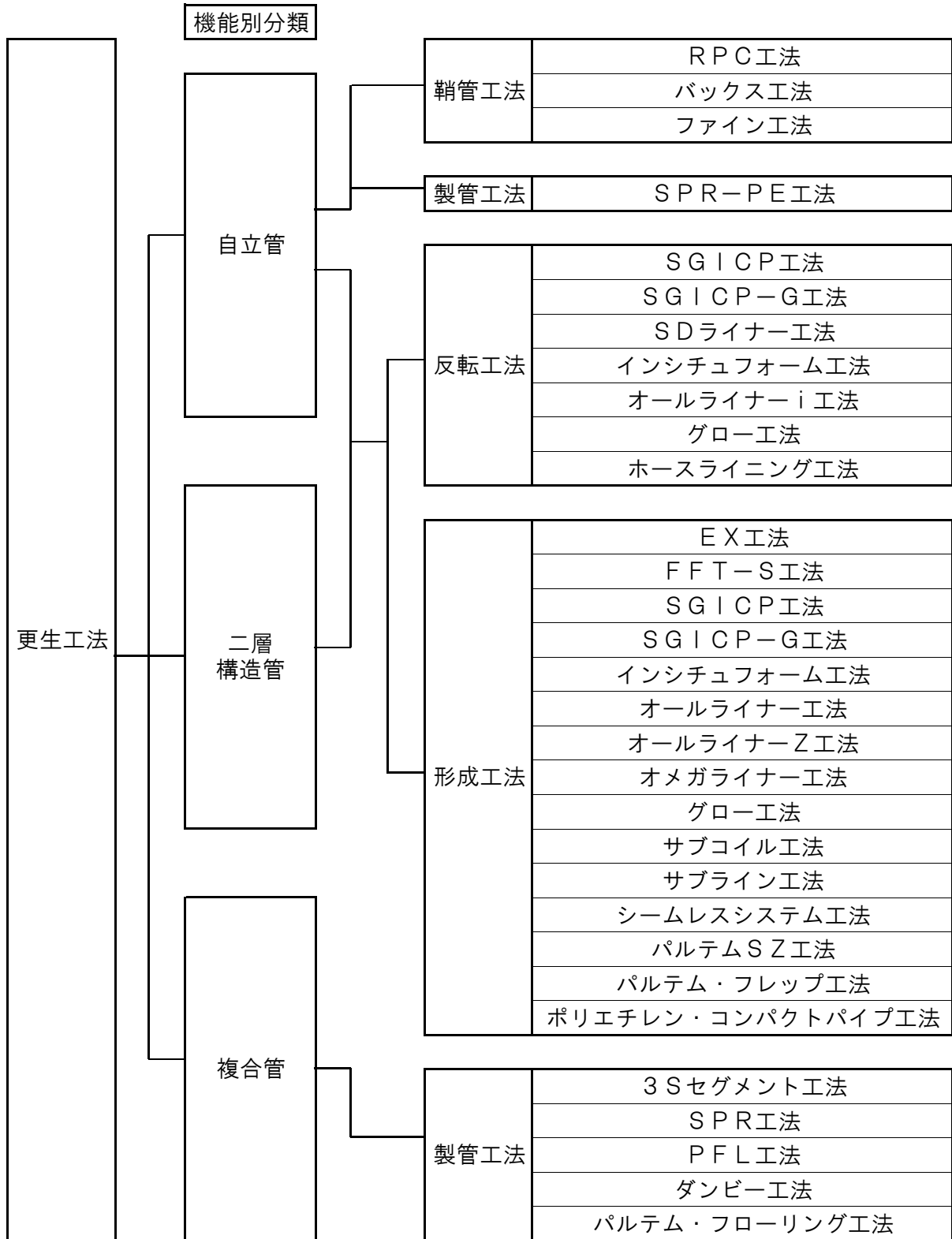
ϕ 700 SUS 既設管内布設工事 L=100.0m （既設管：S47 ϕ 800 SP）

- ※ マッピングシステム上の表記：H31 SUS（PIP） ϕ 700
- ※ 既設管は「さや管」としてマッピングシステム上に表示

【露出した配管がある場合の記入例】

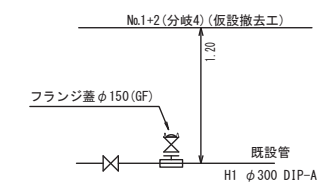
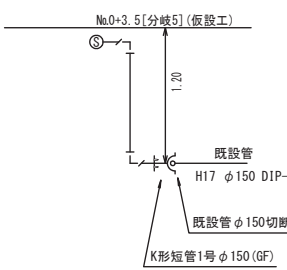
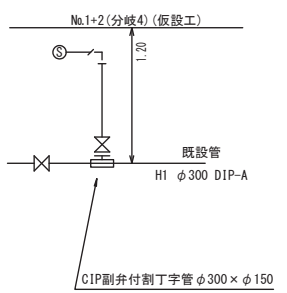
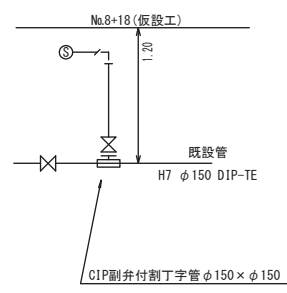
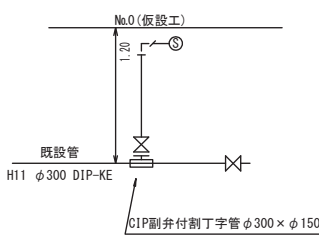
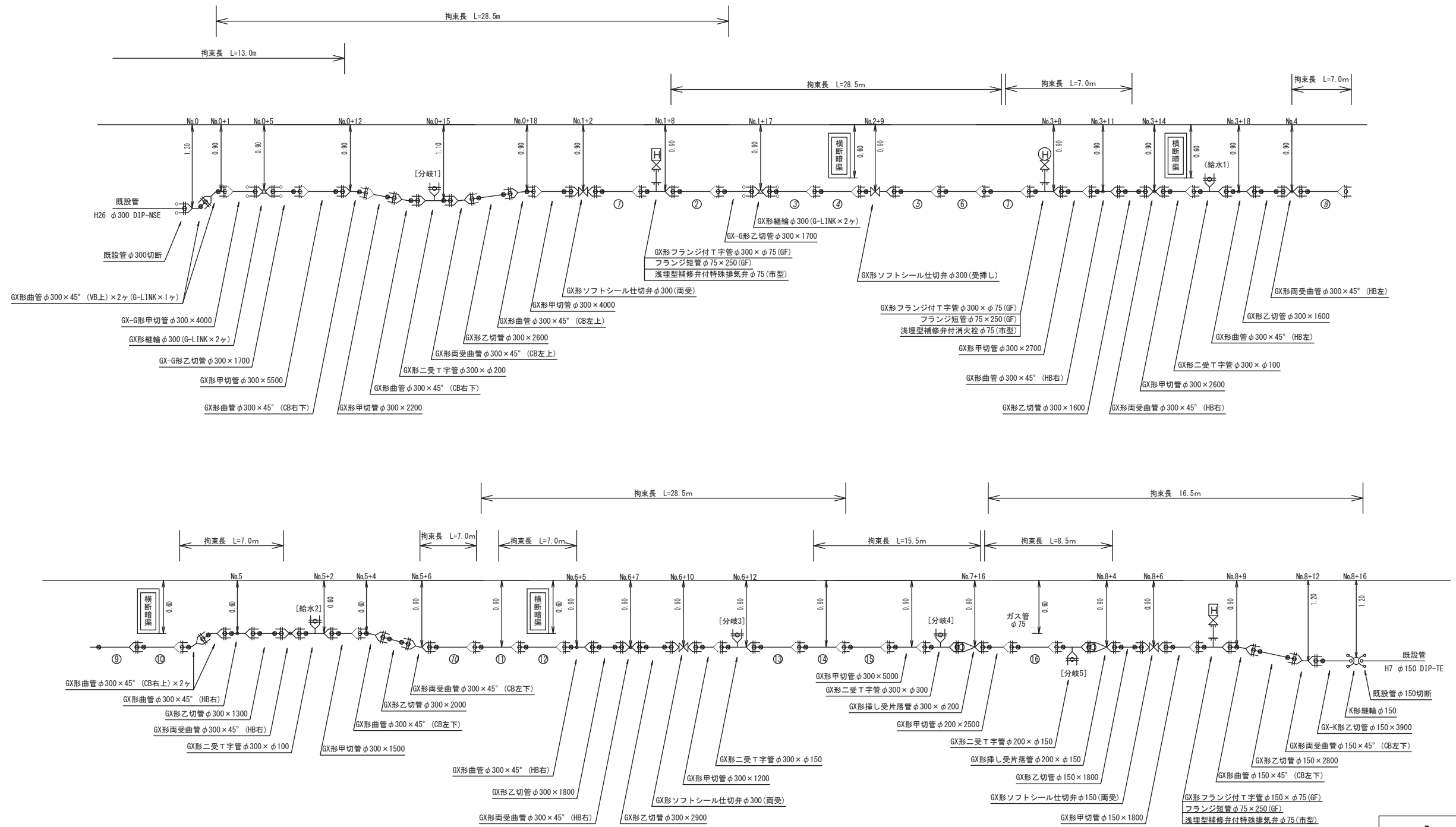
ϕ 200 SUS L=20.0m		
As=A H=1.2m L=5m	露出管 L=10.0m	As=A H=1.2m L=5m

【参考】更生工法例



※『（一社）日本管路更生工法品質確保協会 資料』による

管割図(1) S=Free



許可番号 〇区雑第〇〇〇〇号

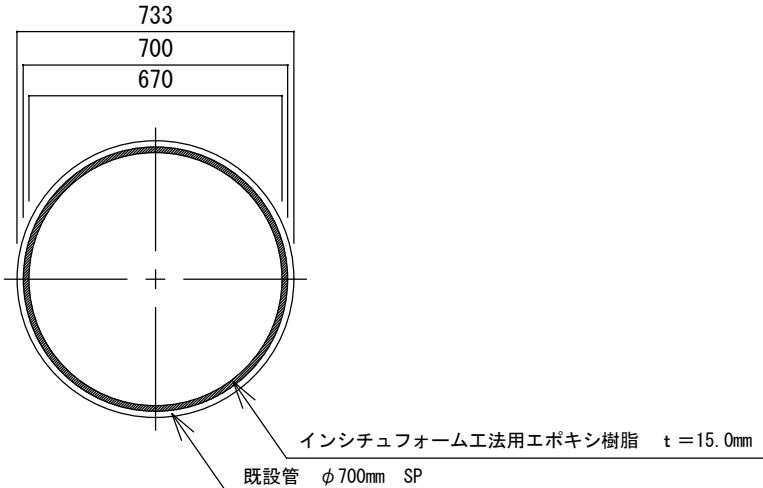
完工図				
監督員	〇〇	設計者	××	主管課
			係長	△△
			課長	◆◆
施工業者社名 福岡市〇区〇〇〇丁目〇番〇号				
株式会社 〇〇〇〇				
代表取締役 〇〇〇〇				
TEL 000-000-0000				
工期		申	令和〇年	〇月
		奉	令和〇年	〇月

工事名称	〇区〇〇〇丁目地内 配水管布設工事		
図面番号	6-5	縮尺	内記
管径管種	$\phi 300$ DIP-GXE	$\phi 200$ DIP-GXE	$\phi 150$ DIP-GXE
布設延長	156.0M	8.5M	11.5M
製図	令和〇年〇月〇日		

福岡市水道局配水部〇〇管整備課

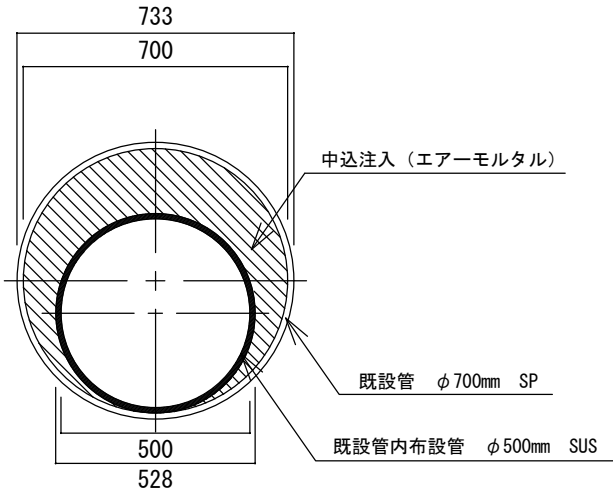
【既設管路更生工事の管断面図記入例】

管断面図



【既設管内布設工事の管断面図記入例】

管断面図



既設管路更生工法仕様書（記入例）

インシチュフォームライナー厚の検討

1. まえがき

既設管の強度を見込まず、更生管の耐荷力で土圧、活荷重及び内水圧に耐え得るものとし、日本水道協会「水道施設設計指針・解説 1990」硬質塩化ビニル管管厚計算式及び日本インシチュフォーム協会工法資料に基づき、検討を行う。

2. 設計条件

材料	: 高内圧型エポキシ樹脂 (PL-EP)
曲げ応力度	: 50N/mm ²
引張応力度	: 45N/mm ²
許容曲げ応力度	: 10N/mm ²
許容応力度 (引張)	: 15N/mm ²
ヤング係数	: 2500N/mm ²
設計水圧	: 1.3MPa (静水圧+水撃圧)
地下水位	: 管頂程度
上載荷重	: T-25
欠損部径	: 10%
土の単位体積重量	: 18kN/mm ³
土の内部摩擦角	: 30°
土の粘着力	: 0kN/mm ²
基準反力係数	: 7N/mm ²
基礎の設計支持角	: 120°

施工区間、管径、土被り並びに上載荷重条件について、表-1 にまとめる。

表-1. 設計条件

	区間	更生管外径 (mm)	土被り (m)	上載荷重	設計内圧 (MPa)	欠損部径
1	立坑 No. 1→立坑 No. 2	700	1,500	T-25	1.30	10%
2	立坑 No. 3→立坑 No. 2	700	3,260	T-25	1.30	10%
3	立坑 No. 3→立坑 No. 4	700	1,200	T-25	1.30	10%

3. 計算結果

表-2 に計算結果を示す。

材料製造最小厚さ : 8.0mm

製造ピッチ : 9.0mm, 11.0mm, 12.0mm, 14.0mm, 15.0mm, 17.0mm, 18.0mm . . .

表-2. 計算結果

	区間	更生管外径 (mm)	外圧に対する必要厚 (mm)		内圧に対する必要厚 (mm)		採用厚 (mm)
1	立坑 No. 1→ 立坑 No. 2	700	12.0	N. G.	8.0 (最小厚)	O. K.	14.0
			14.0	O. K.			
2	立坑 No. 3→ 立坑 No. 2	700	14.0	N. G.	8.0 (最小厚)	O. K.	15.0
			15.0	O. K.			
3	立坑 No. 3→ 立坑 No. 4	700	12.0	N. G.	8.0 (最小厚)	O. K.	14.0
			14.0	O. K.			

インシチュフォーム工法の主要資材

1. 材料

バッグ

2. バッグの概要

(1) バッグ

ガラスリーンフォースバッグの構造は、標準のバッグと同様に複数のフェルト層構造をベースにしたもの。

バッグは以下のもので構成。

一番外側の層（反転硬化後流体に接する側）は、ポリエステルフェルトにポリプロピレンをコートしたコーティッドフェルトで内面のフェルト層は化学反応に耐性のある E-CR ガラスで作られたグラスファイバーをポリエステルフェルトで挟んで一体型にしたフェルトの積層よりなり、最も内側の層はポリエステルネットの補強フェルトより構成されている。

(2) バッグの企画

① 外観・形状・・・円筒状で表面のフェルトには傷等のないこと。

② 形状許容値・・・長さ：設計値以上

口径：設計値の±2%以内

厚み：所定の圧力時（200g/cm²）で設計厚以上

③ 継目・接合・・・バッグの接合は突き合わせ及び重ね合わせ縫製で、コーティッドフェルトの縫製部は、ポリプロピレンの熱溶着とする。

(3) 製造会社

●●●●●株式会社

3. 樹脂

(1) 樹脂の種類

インシチュフォーム工法用エポキシ樹脂

(2) 品質及び製造会社

品名 : INS-102

製造会社 : ▲▲▲▲▲株式会社

4. 品質管理

ドライチューブ硬化後の品質を保証するために次の試験を行う。

試験材料は、平板であり、かつモールドで形成したもので行う。

それぞれの試験片の特性は、下記の値以上とする。

(1) 曲げ特性 : JIS K 7171

曲げ弾性率 : 2500 N/mm²

曲げ強さ : 50 N/mm²

(2) 引張特性 : JIS K 7161

引張強さ : 45 N/mm²

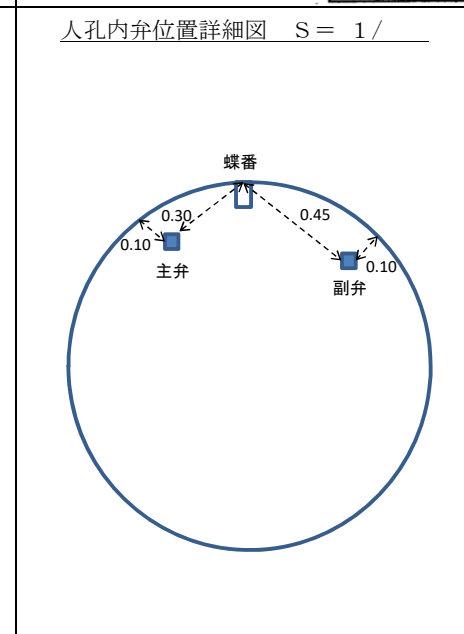
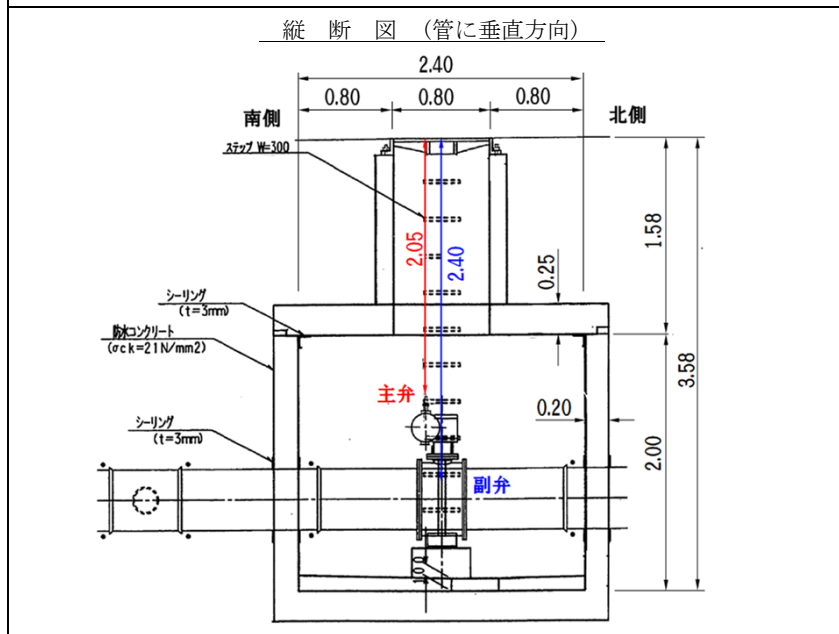
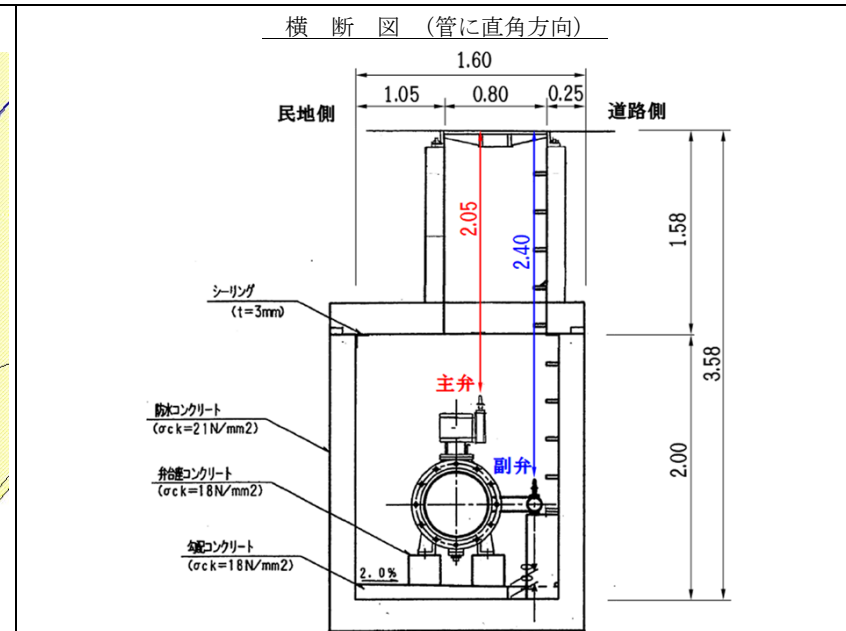
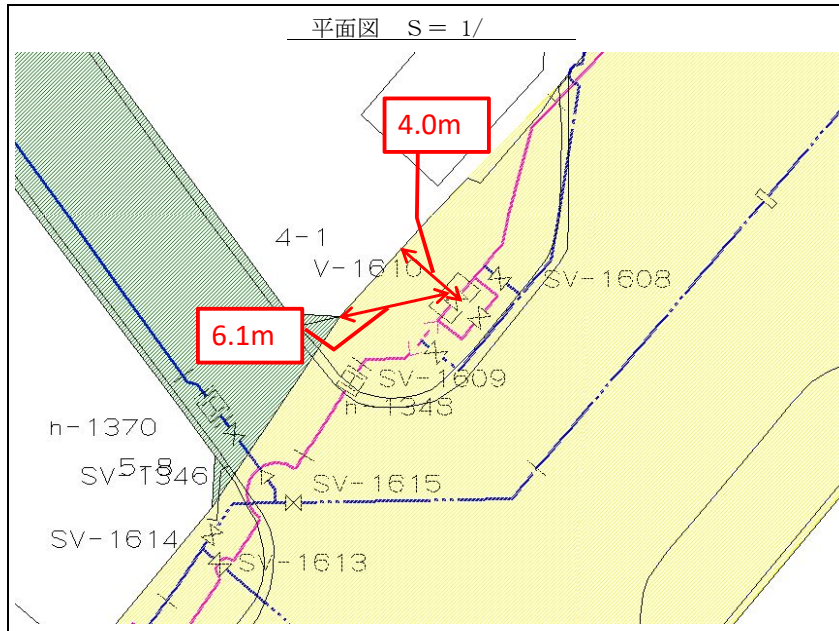
別紙12_配水本管仕切弁等及び弁室台帳様式・記入例

配水本管仕切弁及び弁室台帳

[整理番号]

戸番図番号	P2530 - 2 - 10	場所	〇〇区〇〇1 丁目 〇〇 方面	製造番号	〇〇〇〇	弁の種類	〇〇
主 弁			副 弁			弁 室	
弁番号	V- 〇〇	口 径	φ 500 mm	弁番号	V- 〇〇	口 径	φ 100 mm
室内縦	1.60 m	全 高	3.58 m	室内横	2.40 m	スラブ厚	m
形 式	〇〇 弁		形 式	〇〇 弁		形 式	
製 造	2019 年	製造元	〇〇 製	製 造	2019 年	製造元	〇〇 製
室内高	2.00 m	側壁厚	m	人孔径	0.80 m	底版厚	m
回転数	右 開 55 回	設 置	R2 年 3 月	回転数	右 開 19 回	設 置	R2 年 3 月
弁深度	2.85 m		弁深度	3.20 m		人孔高	1.58 m
形 式			形 式			形 式	型
弁 操 作 記 録						位 置 図 s = /	
年 月 日	主弁回数	副弁回数	目 的	内 容	確 認	 <p>位置図（配管平面図）については、 発注課より受取ること</p>	
R2・3・13	全開 回	全開 回	工事・配水調整・事故	〇〇区〇〇1丁目地内配水管布設工事で新設	〇〇		
・	回	回	工事・配水調整・事故				
・	回	回	工事・配水調整・事故				
・	回	回	工事・配水調整・事故				
・	回	回	工事・配水調整・事故				
・	回	回	工事・配水調整・事故				
・	回	回	工事・配水調整・事故				
点 検 修 繕 記 録			弁操作に伴う必要資機材			写 真	
年 月 日	内 容		確 認	弁操作用	その他		
・				仕切弁キー(3.0m) 1 本	発電機 基		
・				仕切弁キー(3.5m) 1 本	送風機 基		
・				十字キー 2 本	水替ポンプ 基		
・				フック 本	酸素濃度計 1 個		
・				六角棒 本	懐中電灯 1 個		
・				ハンドル 1 本			
				※弁操作時は事前に現場を確認し必要資機材を再確認すること			

(作成年月日 令和 2年 4月 1日)



銘板写真

全回転数 : ○○回転
 製造年 : 2019年
 製造番号 : ○○○○

減圧弁及び弁室台帳

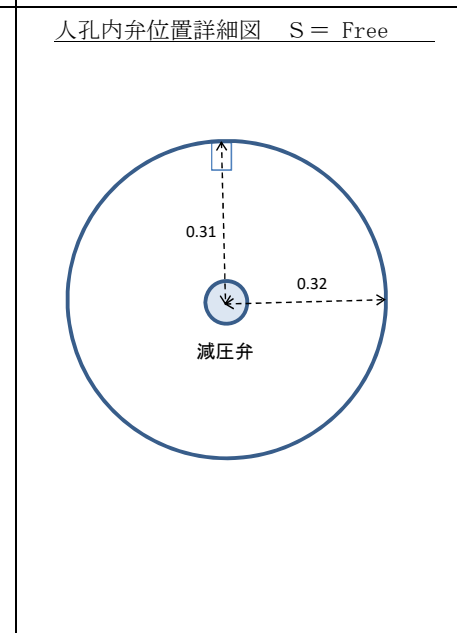
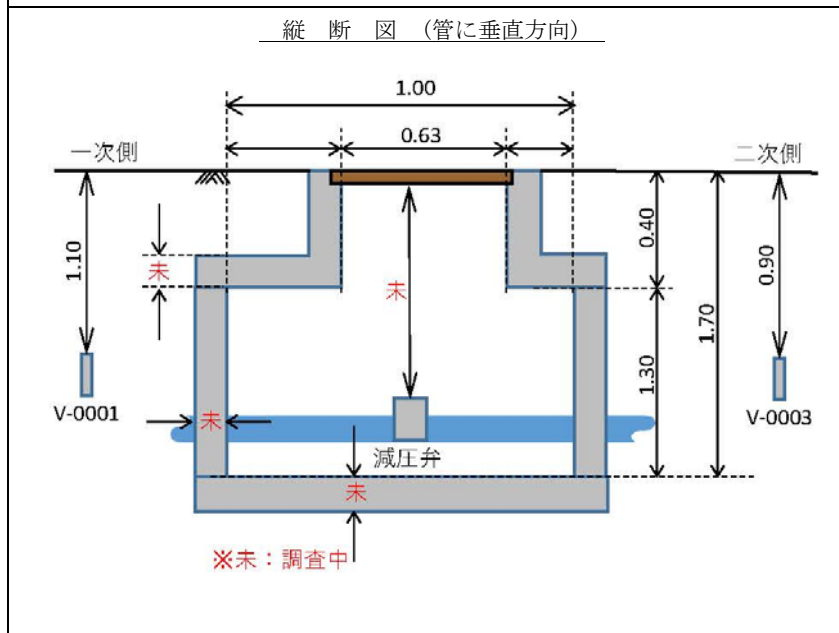
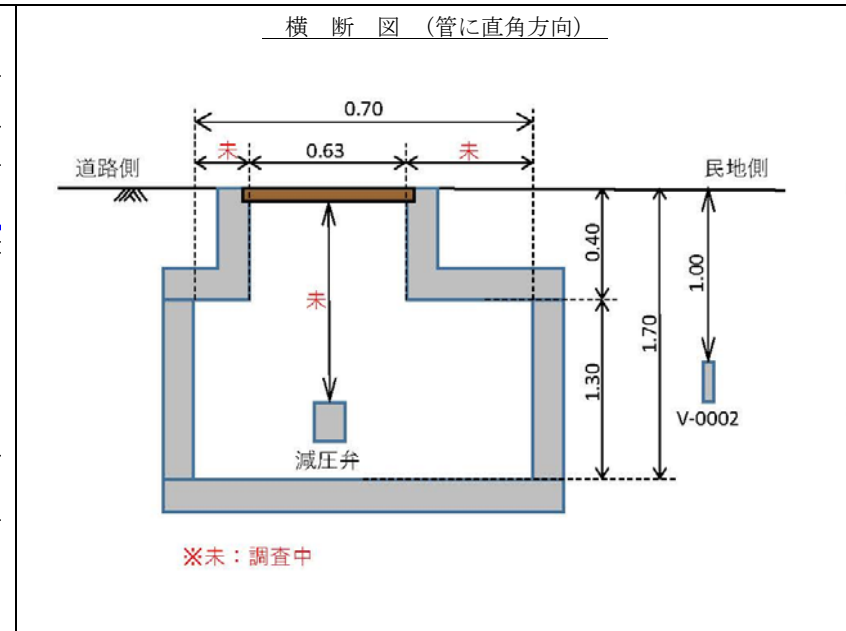
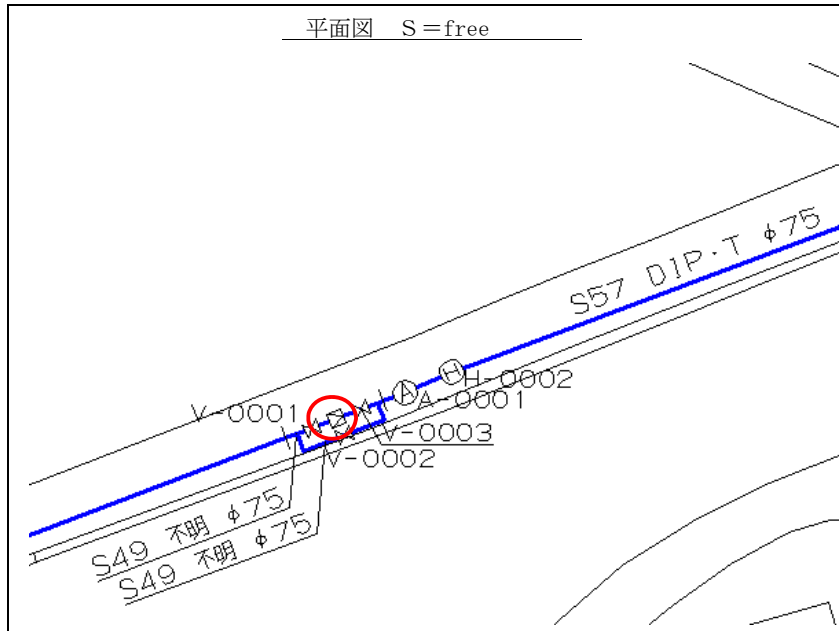
[整理番号]

戸番号	P**** - * - *	場所	〇〇区 〇〇2 丁目 〇〇〇〇	方面	製造番号	948-7083-2-2	弁の種類	減圧弁			
減 圧 弁			バ イ パ ス 弁			弁 室					
形式	コンフローオートバルブ 減圧弁【MRC-100型】		弁番号	V- 0 0 0 2	形式	水道用ダクタイル鋳鉄仕切弁	室内縦	1.00 m	全高	1.70 m	
製造元	〇〇〇〇(株) 製	口径	φ 75 mm	製造元	— 製	口径	φ 75 mm	室内横	0.70 m	スラブ厚	— m
製造	**** 年	設置	**** 年 一 月	製造	**** 年	設置	**** 年 一 月	室内高	1.30 m	側壁厚	— m
重量	約 52 kg	試験圧力	17.5MPa	弁深度	1.05 m		人孔径	0.63 m	底版厚	— m	
※一次圧力	0.60MPa	※二次圧力	0.15MPa	開度	全閉		人孔高	0.40 m	形式	防水型	
(一次側) 仕 切 弁			(二次側) 仕 切 弁			位 置 図 S=free					
弁番号	V- 0 0 0 1	形式	水道用ダクタイル鋳鉄仕切弁	弁番号	V- 0 0 0 3	形式	水道用ダクタイル鋳鉄仕切弁				
製造元	— 製	口径	φ 75 mm	製造元	— 製	口径	φ 75 mm				
製造	**** 年	設置	**** 年 一 月	製造	**** 年	設置	**** 年 一 月				
弁深度	1.10 m		弁深度	0.90 m							
開度	全閉		開度	全閉							
弁 調 整 記 録 (※設定値変更時記入)											
年 月 日	一次圧	二次圧	内 容				確認				
R2・6・8	1.0 Mpa	0.1 Mpa	設定値確認調査				〇〇				
・	Mpa	Mpa									
・	Mpa	Mpa									
・	Mpa	Mpa									
点 検 修 繕 記 録			弁操作用		その他						
年 月 日	内 容		確認	仕切弁キー(1.5m)	1 本	発電機	1 基				
・	※(定・詳①・詳②)			仕切弁キー(2.0m)	1 本	送風機	1 基				
・	(定・詳①・詳②)			十字キー	1 本	水替ポンプ	1 基				
・	(定・詳①・詳②)			フック	本	酸素濃度計	1 個				
・	(定・詳①・詳②)			六角棒	本	懐中電灯	1 個				
・	(定・詳①・詳②)			ハンドル	1 本	※弁操作時は事前に現場を確認し必要資機材を再確認すること					
・	(定・詳①・詳②)										



※一次・二次圧力は設置時の値 定：定期点検の略。1回/年 詳①：詳細点検①の略。1回/5年 詳②：詳細点検②の略。1回/10年

(作成年月日 令和 2年 7月 14日)



銘板写真

重 量 : 52 k g

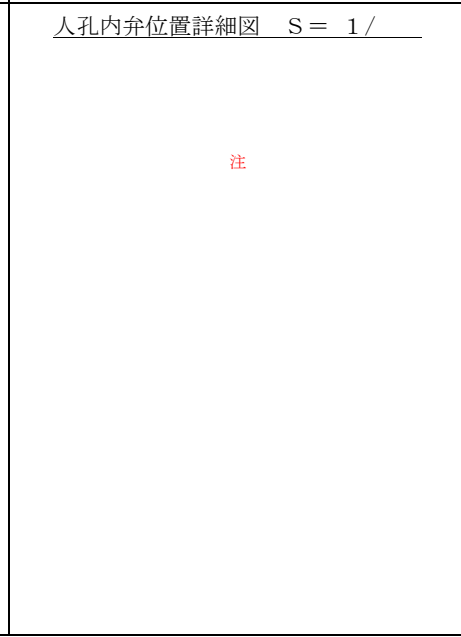
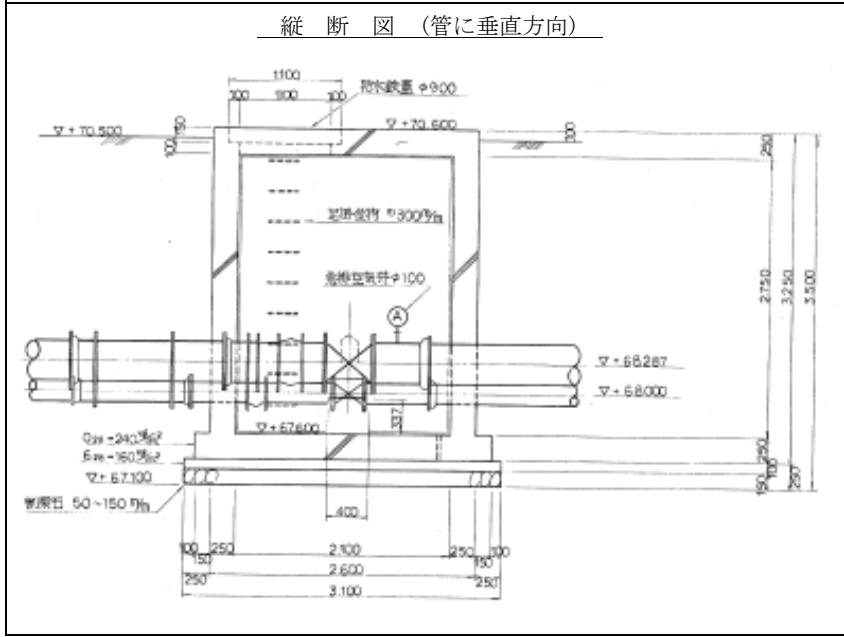
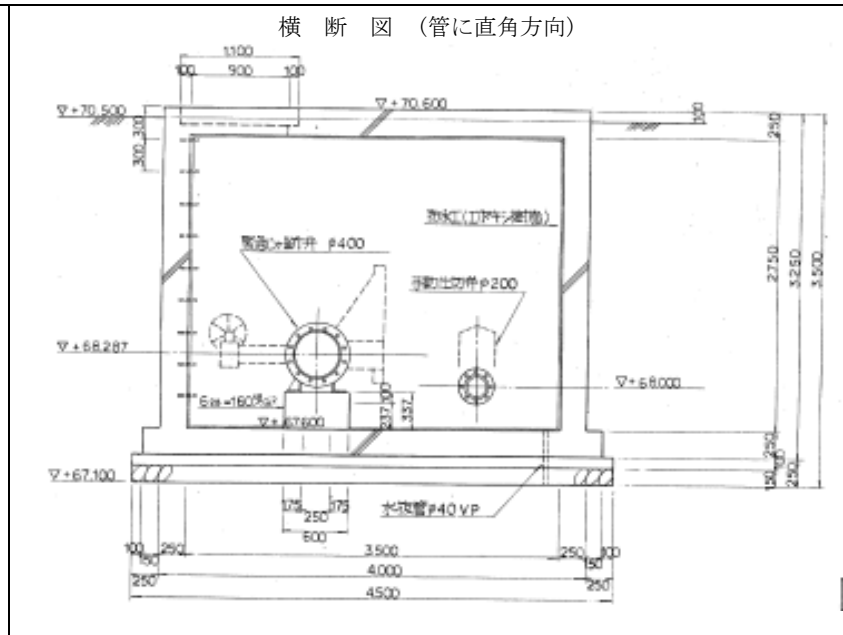
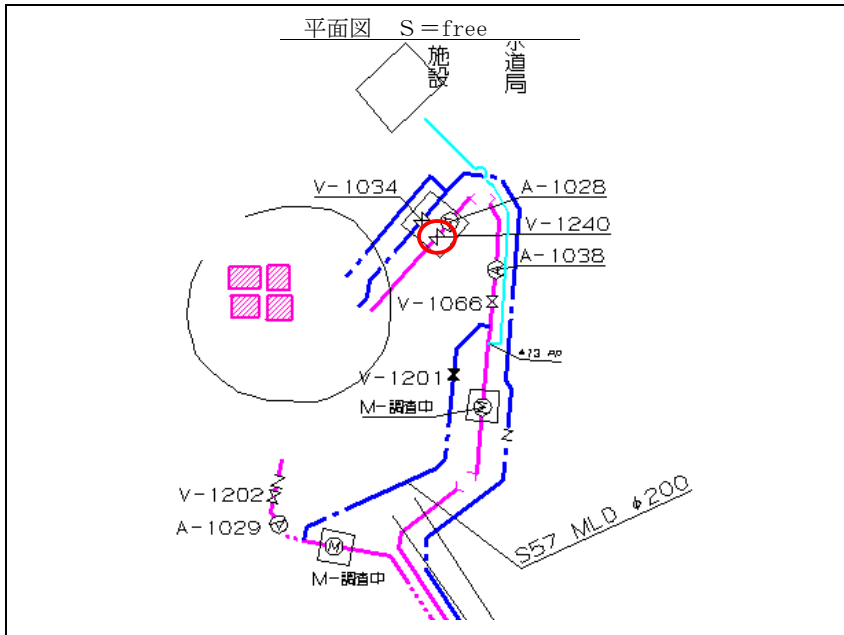
製 造 年 : 1994年

製造番号 : 948・7083・2・2

緊急遮断弁及び弁室台帳

[整理番号]

戸番号	P**** - * - *	場所	〇〇区〇〇 2 丁目	〇〇配水池	方面	製造番号	**-*-*****	弁の種類	差圧式緊急遮断弁			
緊急遮断弁							弁室					
弁番号	V- 1240	口径	φ 400 mm	作動方式	EG-3型 (差圧シリンダー式)		室内縦	4.50 m	全高	2.50 m		
形式	KP-A緊急遮断弁			通常流量	約100m ³ /h	作動流量	900m ³ /h	室内横	2.50 m	スラブ厚	0.35 m	
製造	**** 年	製造元	〇〇〇〇(株)	製	耐圧試験	1.40 Mpa	濡れ試験	0.12 Mpa	室内高	2.25 m	側壁厚	0.25 m
弁深度	2.30 m	設置	**** 年 * 月	手動軸	丸ハンドル	開閉方向	左廻り開き	人孔径	0.80 m	底版厚	0.25 m	
全閉度	閉方向30%	弁全閉速度	30 秒	回転数	全開から全閉まで約〇〇回転		人孔高	0.30 m	形式	防水型		
弁操作記録							位置図 S=free					
年 月 日	弁回数	目的	内 容				確認					
. .	回	工事・配水調整・事故										
. .	回	工事・配水調整・事故										
. .	回	工事・配水調整・事故										
. .	回	工事・配水調整・事故										
. .	回	工事・配水調整・事故										
. .	回	工事・配水調整・事故										
. .	回	工事・配水調整・事故										
点検修繕記録				弁操作に伴う必要資機材				写真				
年 月 日	内 容			確認	弁操作		その他		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 緊急遮断弁本体写真 (設置状況)を添付 </div>			
H** . .	緊急遮断弁保守点検業務委託【〇〇〇〇(株)】			〇〇	仕切弁キー(0.0m)	本	発電機	1 基				
H** . ** . **	緊急遮断弁保守点検業務委託【〇〇〇〇(株)】			〇〇	仕切弁キー(0.0m)	本	送風機	1 基				
R** . ** . **	緊急遮断弁保守点検業務委託【〇〇〇〇(株)】			〇〇	十字キー	2 本	水替ポンプ	1 基				
. .					フック	本	酸素濃度計	1 個				
. .					六角棒	本	懐中電灯	1 個				
. .					ハンドル	本						
. .					※弁操作時は事前に現場を確認し必要資機材を再確認すること							



銘板写真

注

全回転数：
製造年：
製造番号：

水管橋台帳

(管理番号: ○○○○)

横断ヶ所	自 ○○区 ○○4丁目23	戸番図 番 号	P 3427-2-8 P - -	位置図 S = /	
	至 ○○区 ○○3丁目22	管 径	φ 300 ㎜		
竣工年	S 55年 10月	竣工図番号	1234	 <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 位置図（配管平面図）については、 発注課より受取ること </div>	
河川名	○○川	河川管理者	国・ <input checked="" type="radio"/> 市・その他		
管 種	SP (SUS304)	延 長	18.3m		
添 架	橋 梁 名 : ○○橋	橋梁管理者	国・県・ <input checked="" type="radio"/> 市・その他		
	橋 梁 構 造 : 1 径間	RC単純床板 橋			
専 用 橋	橋 梁 名 : 径間	橋			
	橋 梁 形 式 :	基礎形式 :			
防 護 柵	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	危 険 性 :	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無		
空 気 弁	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	: <input checked="" type="radio"/> 車口・双口 :	口径 φ75 : <input checked="" type="radio"/> φ25		
伸 縮 管	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	個 数 :	形式 : クローザー形		
点 検 年 月 日	異常有無	備 考		撮 影 年 月 日	写 真
S 55年10月1日	有 <input checked="" type="radio"/> 無	○○区○○4丁目地内配水管布設工事で新設 (○○管整備課・山田)		S 55年10月1日	
H 2年 6月8日	有 <input checked="" type="radio"/> 無	漏水なし (○○課・田中)		H 2年 6月8日	
H 10年10月15日	有 <input checked="" type="radio"/> 無	漏水なし (○○課・佐藤)		H 10年10月15日	
H 21年 9月22日	有 <input checked="" type="radio"/> 無	漏水なし (○○課・鈴木)		H 21年 9月22日	
年 月 日	有 無			年 月 日	
年 月 日	有 無			年 月 日	
年 月 日	有 無			年 月 日	
年 月 日	有 無			年 月 日	
塗 装 年 月	色 彩	塗 装 種 別	備 考	年 月 日	
年 月				年 月 日	
年 月				年 月 日	
年 月				年 月 日	
年 月				年 月 日	
備 考					